

## 秋富士山：グランドキャニオン・小富士偵察山行

【山城】 富士山

【日程と天気】 2016年10月15日（土）

【メンバー】 菊池単独

【行程】 千葉 3：40ー御殿場 ICーアザミラインー須走馬返し（旧馬返し 1370m） 6：30ーグランドキャニオン入口付近駐車ーグランドキャニオンー小富士（1906m）ー須走 5 合目（1976m）ー古御嶽神社ー登山道ー樹齢約 700 年のカラマツ見学ー長田山荘（新 6 合目 2450m）ー12：05 山小屋（2610m）ー須走 5 合目ー登山道ー御室浅間神社跡ー登山道ーグランドキャニオンー15：05 グランドキャニオン入口



・ちば山の会の新人歓迎会は 16 日に所用があり不参加となった。15 日は大きな高気圧が本州の上に乗った秋晴れ、放射冷却により今秋一番の冷え込みであった。願ってもない登山日和のため、この数年温めていたグランドキャニオン見学と、五合目以下のネイチャースキーの偵察を兼ねて小富士までの偵察山行（ネットで情報を調べ、以下のHPを参考にした。[http://japanesealps.net/fuji/fujisan/grand\\_canyon.html](http://japanesealps.net/fuji/fujisan/grand_canyon.html)）を行った。単独のため、経済的にも体力的にも楽な電車・バス利用の計画であったが、最終的には機動力があり早朝の写真撮影に有利なマイカーでのアプローチを選択した。

・山スキーでいつものように立ち寄る足柄 SA で小休憩、御殿場 IC を降りる頃には日の出

が間近く、須走 IC からアザミラインに入る頃、モルゲンロートが始まり、富士山上部の赤味が増し、路肩に駐車して数枚シャッターを切った。赤富士紛いのショットが撮れたようだ。アザミライン脇を観察しながらゆっくり車を進めると 1370m 付近に旧馬返しのバス停があり、その 100m ほど先にグランドキャニオンと書かれた石柱があった。入口に富山ナンバーの車が一台駐車している。先客がいたが、小生が出発する頃には見学が終了し帰っていくところであった。小生は少し先の道路脇に駐車した。富士演習場の敷地内であるため侵入禁止のロープが張られている。その脇を通り、すぐに沢地形を通過しほんの 100m ほど進むと自然にグランドキャニオンに降りて行けます。



左岸が大迫力の岸壁ならぬ砂礫壁です。歩きにくい砂礫の沢床を上流に進むと深さは最大 50m ほどあると思われる砂礫壁がしばらく続いていた。木を巻き込んで崩壊し、ボトムでデルタ状に大量の砂礫が堆積した部分もみられた。ふと気が付くと足元には動物（おそらく鹿であろう）の白骨が一頭分散乱していた。砂礫の斜面には動物の足跡がトラバースしており、どのような状況で獣が巻き込まれたのかなど考えながら進んだ。



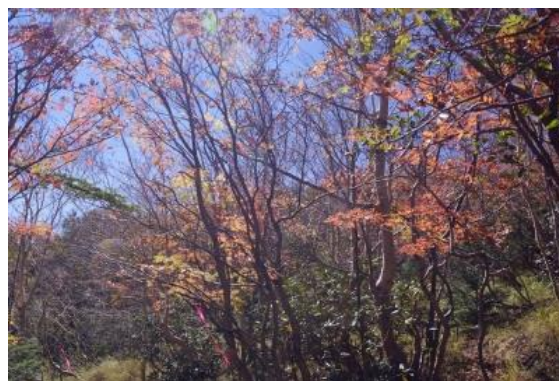
沢床が狭くなり大きな岩がゴロゴロした急な沢になってきたため、登りやすいルートを選び右岸に登り上げた。踏み跡（登山道にしては心もとない道）を少し上部に進むと、グランドキャニオンから続く上流の沢床は容易に渡れそうであったため、左岸に移動して

しばらく進むと明瞭な登山道に出た。小富士に続く登山道である。グランドキャニオン上部から左岸の小富士に続く登山道に到達するルートは分かりにくく、現場でそれぞれ方々がルートファインディングを要する。悪天でない限りそれほど難儀は要しないであろう。ネットで収集したルートをGPSにセットしていったが、予備電池を忘れたため、出発直後に使用不能となり、一番目の失敗談であった。

・小富士山頂に続く斜面は溶岩砂礫の広い無木立の緩斜面で条件が許せば、スキー滑走に快適と思われる。標高差 200m 余りの美味しそうな斜面である。来年は是非挑戦してみたいとテンションがアップした。



須走 5 合目（標高約 2000m）から下山予定であったが、時間も早く素晴らしい青空を見て、しばらく登山道をハイクアップすることとした。いつもは山スキーの時期に頻回に訪れており、できるだけオープン斜面を登っていくが、今回は古御嶽神社の鳥居を潜って、初めて林間の登山道ルートを進んだ。時期的にはやや早い広葉樹の紅葉（ダケカンバやナナカマドなど）やカラマツの黄葉を楽しみながら写真撮影しながら進むと、単独の若い女性がやはり写真撮影しながら小生と相前後しながら登っていた。笑顔で会釈を交わすと何となく話しかけないわけにはいかない。どうも外国人のようで拙い英語と日本語チャンポンで会話したら、なんとマレーシア人、東大でサイエンスの研究のため留学しているとのこと、日本に来て数ヶ月、夏に富士山に登ったが、また来たくなりバスで御殿場からやってきたとのこと。7 合目の太陽館が営業最終日で宿泊して翌朝、サミットを目指したいとのことであった。



林間を抜け、山頂が望める開けた地点までくるところ、小田急・富士急合同のハイク企画のハイカーに追いつかれた。定員 500 名で松井田駅集合、そこから 5 合目までバスを仕立てて大挙してやってきたのだ。途中、樹齢 700 年ほどのカラマツを見学するルートが組み込まれており、小生も許可を得て、ピンクのテープで導かれ 1 時間ほどの道草ルートであった。一部軽い藪漕ぎ風でシャクナゲが多いルートであった。見事なカラマツの巨木に出会うことができ記念撮影したが、メモリーがなくなり一部削除するつもりがなんと慌ててしまい、全削除をクリックしてしまい、苦勞して撮影してきた素晴らしいショットを失ってしまい、GPS の電池に続き 2 回目の大失敗であった。紅葉した広葉樹や、道端のツララを楽しみ新 6 合目の長田山荘に到達、小休憩後さらに 2610m ほどの閉鎖された山小屋まで登り、ここから下山開始とした。



下山路は山スキーで登りあげるオープンルートである。山頂を振り返りながら写真撮影しながら下った。



5 合目からはいわゆる古い登山道を選択、すぐ浅間御室神社跡を通過、歩きやすく快適な登山道、意味の分からない石柱、癒しの林間登山道を経て、再度写真撮影すべくグランドキャニオンを經由して出発地点に戻った。



5合目以下の富士山登山道を巡る偵察ハイクは御殿場ルート of 山スキー持参も加えて3回目である。なかなか面白い経験ができるため今後も他のルートで楽しみたい。

